

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 R2.1.6 No.159
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

見通しをもって 授業にのぞむ

鳥取市立青谷中学校



青谷中学校では、「自主学习や予習をきっかけに、授業に進んで喜んで向かう子ども」をめざして、「授業と連動した予習」を柱にした授業改善が行われています。教科の枠を越えた全職員による実践が展開されています。

自学

○目的意識をもって
自主学习にのぞむ

- ・「めあて」「振り返り」を記入し、授業の復習をする。

○予習で『生わかり』

- ・予習課題として教科書を読み、読んで分からなかった部分に付箋を貼ってくる。あくまでも「予習」なので、完全に内容を理解してくる必要はない。半分くらい分かった『生わかり状態』で授業にのぞむ。教科によってはプリントの場合もある。

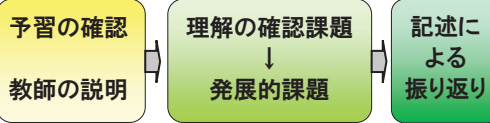
予習

授業

○授業で『本わかり』

- ・授業の流れを再構築。導入では、予習課題をもとに基本的な知識を確認する。展開では、「子どもたちが考える活動」等に焦点を置いた学習を行う。
- ・授業を通して完璧に理解した『本わかり状態』をめざす。

～学習展開例～



学びのサイクル

家庭学習
「自学・予習」

授業
「めあて」
↓
「振り返り」



○予習を見直す2分間

- ・授業開始2分前に学習委員が「着席」と「ちょこ勉（ちょこっと勉強）」を呼びかける。
- ・授業で特に注意をして教師の説明を聞くポイントを意識する。

ちょこ勉



付箋を貼った教科書を見直す生徒

「予習課題があると授業の見通しがもててよい」「難しい課題の時もあるけれど、授業を通して理解が深まる」～生徒の声より～

授業と家庭学習の両方を改善し、リンクしていくことで「学びのサイクル」がづくり出されています。また、「授業と連動した予習」を取り入れることで、子どもたちは学習内容の見通しがもて、より主体的な学びが期待できます。そして、授業での全員参加が促進され、主活動の時間が確保でき、深い学びの授業づくりにつながっています。

教育目標の達成を子どもたちの姿に見る

～何ができるようになったか～

局長 吉川 誠司

明けましておめでとうございます。オリンピック・パラリンピックイヤーとなりました。世界が明るく希望に満ちた一年であってほしいという思いで新年を迎えました。

さて、後期の学校訪問を終え、振り返ってみますと、どの学校でも運動会や学習発表会などの様々な行事や日々の学校生活を通して大きく成長した子どもたちの姿に出会い、嬉しく、そして頼もしく感じました。参観した教室では、黒板や学習課題を見つめるまっすぐな眼差し、ペアやグループで真剣に話し合う様子、友だちの発表や先生の説明にうなずきながら聴き入る様子など、真剣に学びに向かう姿がたくさんありました。それは、当然、春からの積み上げや先生方の十分な準備と工夫した取組の成果であることは言うまでもありません。また、学校内のいろいろな所で、地域の方やゲストティーチャーとの交流や学びの足跡を多く見ることができました。各校の教育目標達成に向けた取組が確実に進んでいることを実感しました。

今年度も残り3か月となりました。引き続き子どもたちのもてる力を引き出し、可能性を広げていっていただきたいと思います。流行りの応援ソングのように。

♪～パプリカ 花が咲いたら 晴れた空に種を蒔こう

ハレルヤ 夢を描いたなら 心遊ばせあなたにとどけ～♪

本年もよろしくお願いたします。

「パプリカ」(2018年 作詞作曲：米津玄師)

学力向上を支える「家庭学習の質の向上」

～ 家庭学習の質向上研修会（12月2日）より～

東部教育局では、「家庭学習の質向上推進事業」において、各中学校区の強みを生かしながら、課題の解決に向け、市町教育委員会、学校、家庭が連携した実践研究を推進しています。12月2日には、東部地区の小中学校、義務教育学校が参加し、優れた実践の共有や各校の課題解決に向けた熱心な質疑や協議が行われました。



実践発表の様子

事業実施中学校区の実践

● 中学校区でつながり、効果的な実践へ

- 各市町の教育委員会担当者が推進リーダーとなり、各校の担当者が構成する「推進チーム」が協議を重ねながら、中学校区の課題の解決に向けた実践を進めている。

事業実施中学校区

5中学校区 15校

- ・鳥取市 青谷中学校区
- ・岩美町 岩美中学校区
- ・八頭町 八頭中学校区
- ・若桜町 若桜学園中学校区
- ・智頭町 智頭中学校区



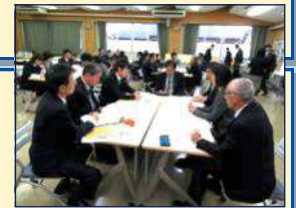
展示コーナーでの説明の様子

● 授業と家庭学習をつなげ、学びのサイクルを生み出す実践

- 予習内容（教科書、プリントなど）を提示する。→ 家庭学習で予習内容の分からない箇所に付箋を貼らせる。→ 授業開始2分前から、付箋を貼った箇所を中心に目を通させる。→ 授業で予習内容の確認と本時のポイントの指導を行う。
- 復習に活用できるような見開き2ページの分かりやすい授業のノートづくりを行う。
- 授業と関連した予習・復習プリントの作成と活用を行う。

● 自主学習の充実に向けた実践

- 自主学習ノートに「めあて」と「振り返り」を記入させる。
- 家庭学習の記録カードに、自主学習の目標を記入させる。
- 休憩時間等を活用して、級外の先生が児童に合った自主学習について指導する。
- 自主学習のメニューを示し、自分の課題に合った内容を選んで取り組ませる。
- 小学校間で自主学習ノートを交換し展示・掲示する。中学生の自主学習ノートを小学校に展示・掲示する。
- 児童がお互いの自主学習ノートについて見合い、付箋に良い点やアドバイス等を書いて交流する。



情報交換の様子

● 学習内容や学習習慣の定着に向けた実践

- パソコンやタブレットを活用し、個々の取組状況を把握し、個に合わせた課題に取り組ませる。
- 9年間の系統性を意識した手引きを作成し、活用を図る。
- 中学校のテスト期間に合わせるなど、中学校区で「がんばり週間」を設定する。
- 家庭学習や家庭生活について記録するカード等を効果的に活用する。
- 学級活動で家庭学習1日分を体験させ、家庭学習の仕方やポイントを指導する。
- 8のつく日に、中学校区で一斉に活用問題に取り組む。

● 家庭との連携を図る実践、PTA活動による実践

- 学級日より等で家庭学習の促進に向けた啓発を行う。
- メディアや家庭学習についての研修会や講演会を開催する。
- アンケートで実態把握と啓発を行う。
- 家庭学習（音読など）への保護者の参画を促す。親子で予習に挑戦する機会を設定する。
- 家庭学習へのやる気を引き出す言葉集を保護者が中心となって作成する。

研修会参加者の感想

- ◆子どもや地域の実態に合わせた具体的な取組を知ることができ、大変参考になった。
- ◆学校全体や中学校区で取り組むことをしっかり決めて、共通して行うことが必要だと思った。
- ◆本校でも家庭学習について課題があるので、できそうな取組を学校に持ち帰り検討していきたい。

事業実施校では、授業改善の取組と家庭学習の質の向上に向けた取組を合わせて行い、学習理解を深め、学力向上につなげようとしています。また、児童生徒が学ぶ意義や目標を明確にもち、自ら学習を計画したり工夫したりするといった、主体的に学ぶ児童生徒の育成を進めています。本研修会では、東部地区の参加校による情報交換も行われました。今後も、各校や各中学校区の実態に応じた、家庭学習の質を高める取組の推進が期待されます。

特別支援教育コーナー

個別の教育支援計画の効果的な活用を

各園・学校において、個別の教育支援計画（以下、支援計画と記す）の作成が進められていますが、作成後の活用については、まだまだ工夫していく必要があります。ここでは、支援計画にまつわる事例をもとに、作成時に気を付けたいことや、作成後の活用方法について考えてみたいと思います。

個別の教育支援計画にまつわる以下の事例について考えてみましょう。



支援計画と指導計画の違いを説明します。

事例1

支援計画を作成する際に、保護者から聞き取りを行い、生育歴や保護者のニーズを書き込んだが、でき上がったものを保護者に見ていただけていない。



支援計画は、本人・保護者のものです。作成後には、必ず保護者に見ていただき、修正があれば赤字で追記してもらいましょう。

事例2

小学校から引き継がれた支援計画がファイルに綴じられたままになっており、中学校で新たに作成されていない。



校種が替わった場合、前籍園・校での情報をもとに、支援計画を新たに作成し直します。

事例3

卒業前に保護者から、支援計画を進学先に引き継いでほしいと言われた通常学級担任。支援計画が作成されていたことをその時初めて知った。



支援計画の作成は、3年程度の長期的な視点で行いますが、評価や追記等は、1年ごとに行います。また、園・校内での共有や引き継ぎが大切です。

個別の教育支援計画とは

- ・学校生活だけではなく、家庭生活や地域での生活も含め、幼児期から学校卒業後までの切れ目ない支援を行うため、家庭や関係機関等と連携し、様々な側面からの取組を示した計画

個別の指導計画とは

- ・学校での具体的な指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画

支援計画は、高校・大学進学や就労の際にも活用できるツールです。保護者の十分な理解のもと、切れ目ない支援に向けて、作成・活用を進めていきましょう。



個別の教育支援計画を支援ツールとして活用しましょう！

個別の教育支援計画の活用例

役割	活用例
<p>校内での連携ツール 保護者・関係機関等との連携ツール</p>	<p>○保護者と学校職員、医療・福祉等の支援者が支援目標や支援内容等について共通理解をし、連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★校内のケース会議の資料として ★保護者・関係機関等と行う支援会議の資料として ★通級指導教室担当者や指導目標や支援内容の共通理解を図るために ★外部専門家から助言をもらうための相談資料として
<p>コミュニケーションツール</p>	<p>○保護者や関係者とコミュニケーションを深め、前向きな意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★保護者・本人のニーズの把握や合理的配慮についての検討を行うために ★支援会議に出席できない関係者から意見をもらうための資料として ★発達段階によっては、本人の意思を確認するために
<p>進学先への引き継ぎのためのツール</p>	<p>○卒園・卒業後の切れ目ない支援のために進学先の学校等と共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★進学先への引き継ぎ資料として ★進学試験における特別な配慮を申請する際の資料として

個別の教育支援計画は、園・学校・保護者・関係機関等が、子どもの教育的ニーズや支援目標等を共通理解して指導・支援を充実させていくための大切なツールであることを認識し、様々な場面で積極的に活用していくことが大切です。園・校内で作成されている個別の教育支援計画を共有し、活用に向けて園・学校としての組織的な取組を進めていきましょう。

社会教育
コーナー

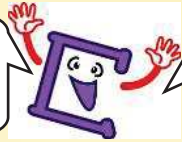


CHA³プログラムで自分を見つめよう

本年度、社会教育課の取組として「CHA³（チャチャチャ）プログラム」が千代南中学校で行われました。「CHA³プログラム」は、地域の大人や大学生と出会う機会（Chance）をつくり、多様な価値観と出会うことで自分を変え（Change）、様々なことに挑戦（Challenge）する態度を養うことをねらいとしています。中学生・大学生・大人がグループになり、働き方や生き方などについて自由に話し合うトークプログラムであり、ふるさとを思う気持ちを育てることや自己肯定感の向上にも役立ちます。

千代南中での実施例

①まずはアイスブレイクで緊張をほぐし、自己紹介を行います。



②司会から全員にテーマを出題。用紙に自分の考えをキーワードで書き、司会の合図で一斉にオープン。その後、それぞれの考えを伝え合います。

【働くことって？】

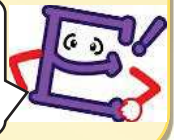
「お金を稼ぐこと」「人のために役立つこと」「自分を磨くこと」など様々な意見が出ました。

【好きな給食のメニューは？】
「揚げパン」「カレー」など、世代を越えて盛り上がりました。

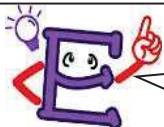
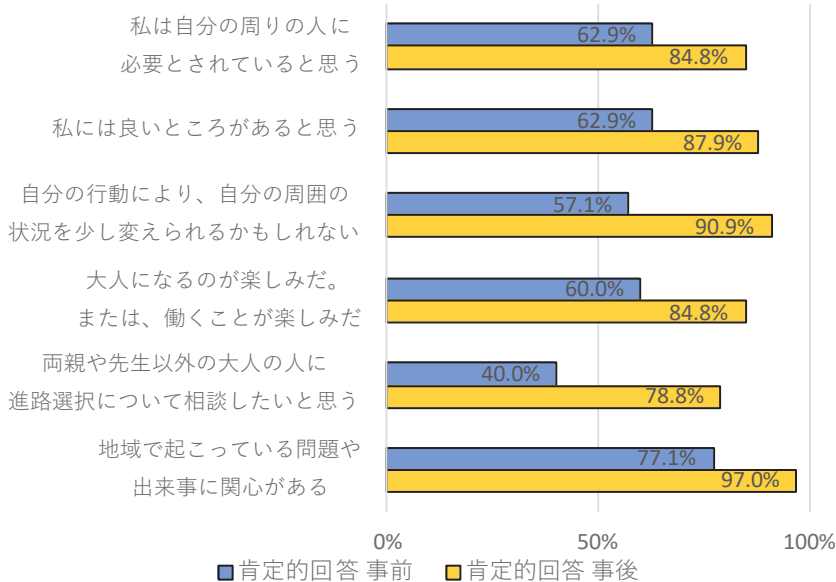


【地域のいいところは？】
中学生から「お帰りと言ってくれるところ」「星がきれい」などの素直な意見が出ました。

③時間になったら次のテーマへ。前後半でグループを替え、3テーマずつ話し合います。最後は、振り返りもします。



中学生のプログラム実施前後の意識変化（抜粋）



事前・事後のアンケートより、各項目で肯定的な回答が増えたことがわかります。

感想より

（中学生）

- 普段話さない年代の人との交流が、将来に対しての思いが変わるきっかけになった。
- 大人の意見を聞いて、自分とは見方が全然違い、たくさんのが学べた。
- 世代を超えた話し合いをすることで、人の生き方・考え方に興味をもつことができた。
- 皆さんが優しく、用瀬（鳥取）は優しい人が多いんだと思った。

（大学生）

- 自身も、自らを振り返り気づかされるが多かった。
- 中学生もしっかりと自分の意見を持ち、それを伝えようとしてくれる姿が良かった。

（大人）

- 中学生のプログラムだが、こちらも勉強になった。
- 中学生たちもしっかりとした考えをもっていて驚いた。

様々な人との交流が子どもの心を豊かなものに育てます。交流することの楽しさはもちろん、普段は関わりのない大人や大学生と意見交換することで、多様な価値観に出会い、自己肯定感が高まるなど、将来に対して前向きな気持ちになることが期待できます。豊かな心を育て、未来を創造する子どもたちを育成するために、様々な出会いの機会を大切にしていきたいと思います。